

グスマンの聖ドミニコ、2024年



親愛なる姉妹の皆さま

2025年の聖年を祝う教会が、私たちに提示する素晴らしい出来事を、私は引き続きこの手紙の中で、皆様を励まし、もっと深く掘り下げていきたいと思えます。シエナの聖カタリナの祝日の機会に、私たちはこれについて振り返りました。彼女の人生における祈りの重要性について、教皇が今年捧げたいと望んでいる祈りの「交響曲」に私たちが参加する動機となると語りました。

今、私たちは父聖ドミニコ祭日の扉の前に立っています。聖ドミニコはこの同じ方針に沿って続けたいと考えておられるでしょう。「希望の巡礼者」というモットーに表現されている「私たちに与えられた希望の火を灯し続ける」という教皇の呼びかけに、私たちはどう応えることができるでしょうか。私たちはカリスマを通じて、この呼びかけに何が貢献できるでしょうか？

おそらく、私たちの父聖ドミニコの重要な特徴を思い出すことによって、彼が生きた当時の不穏な状況に直面した彼の立場は、私たちに光を与え、今日の私たちの現実にも意味を見出すことができるでしょう。

私たちは、世界のさまざまな地域での政治的、社会的、教会的な状況を目にしています。それは私たちに対処できないと感じさせる可能性があります。過激主義の動きは、イデオロギーの中で生じ、しばしば暴力、正当性を主張したり、差別したりする動き、教会内の分裂運動など…につながります。これらは、権力への欲望と宗教的無知という、今の私たちの世界で増大している2つの最も深い現実の現れです。

聖ドミニコが当時、これら2つの現実と直面したのは、これらすべてを超えたものがあると確信していたからです。彼は、神の体験に根ざした希望を持ち、社会や教会の一般的な考え方に流されるのではなく、神の意志を求めました。私たちは、彼が修道会設立へと動かされたのは、多くの人をキリスト教信仰の真実から逸脱させる宗教的無知であるアルビ派の異端の存在と拡大であったことをよく知っています。そして、この異端者の増加は、南フランスの貴族の間で権力闘争を引き起こし、それが教会の支援を受けてアルビ派に対する十字軍が起こった理由です。その関心は、一般社会におけるその力と影響力を強化することでした。

聖ドミニコは南フランスのアルビ派の異端との戦いで重要な役割を果たしました。しかし彼は、暴力が異端に立ち向かう合法的かつ効果的な方法であるとは信じていなかったため、アルビ派に対する十字軍への参加を拒否しました。その代わりに、彼はそれを根絶するための適切な手段として説教することを主張しました。彼はみ言葉、教え、対話を通じて人々を

回心させることに重点を置きました。この立場は、真理の探求に対する彼の深い献身と福音宣教への情熱を反映しており、それが彼を、特に異端に陥った人々にキリストのメッセージを伝える旅へと導いたのです。彼は一貫して明快かつ簡潔に説教し、聖書に頼って福音のメッセージを人々に説得し、共感を得、彼らが信仰を誠実に生きるのを助けました。そのたゆまぬ努力の裏で、聖ドミニコは深い内面生活を培いました。祈りは彼の力と洞察力の源でした。神との交わりの瞬間に、彼は自分の使命を支える希望を見出したのです。

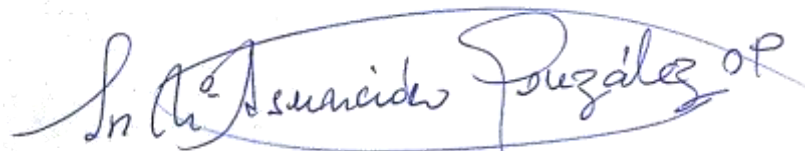
私が、父聖ドミニコの人生におけるこの歴史的事実を指摘したのは、今日の困難な現実直面したときに、私たちが望む成果をもたらすことができないと感じ、失望したり、イライラしたりする絶望感に陥る傾向に、自分自身を流されないようにするためです。私たちが神への揺るぎない信頼を示し、忠実かつ誠実に生活するなら、私たちのライフスタイルはすでに希望のしるしであると私は確信しています。

私たちが生きているこの時代における私たちの義務は、教皇フランシスコが言われているように、堅忍と忍耐をもって神の愛、神の憐れみ、救いの約束を強調しながら、どこにいても福音のメッセージを広め、種を蒔くことであると私は信じています。彼の説教の一つに、「希望には忍耐が必要だ」とあります。それは、「自分たちは種を蒔くが、それを成長させてくださるのは神であることを知る忍耐」です。また、私たちを支えてくださる唯一のすべての源である神とのつながりを弱めないように、私たちの内なる生活を育むことをやめないことも非常に重要です。このようにして、私たちは神の深い経験から生まれる喜びを周囲のすべての人々に放射し、希望があらゆる困難を乗り越えることを証しするでしょう。

姉妹の皆さん、私たちの父の心に燃えた神の働きに対する熱意が、私たちの内にも生き続けますように。

聖ドミニコの祭日、おめでとうございます！

姉妹的抱擁と私の祈りを添えて。



総長 ソール マリア・アスンシオン・ゴンザレス、OP.

